

れども、ことの次に玄るしおきぬ、

〔伊勢參宮名所圖會〕關清水 岩清水 今八町の蟬丸の社内にあれども、長明無名抄に、その時既に水かれたるよし見へたれば、今さだかにそれとも思はれず、されども八町明神前の町を、關

寺清水町といへば、此邊りとは見へたり、

古今雜體 君が代にあふ坂山の岩清水 こがくれたりと思ひけるかな

忠岑

此歌にて見れば、茂みたる木陰にあ  
る岩間などより涌出たるなるべし、

〔類聚名物考 地理三十七〕相坂清水。 おほさかの玄みづ 近江

關の清水同所なり、關川といふも此事をよめるなり、關の藤川とは異なり、

〔類聚名物考 地理三十七〕野中清水。 のなかの玄みづ 播磨國

印南野にあり、野中の水とのみもいふ、

〔古今和歌集雜〕題しらず

よみ人玄らす

いにしへの野中の清水ぬるけれどもとの心を玄る人ぞくむ

〔袖中抄十〕のなかの玄みづ おぼるの玄みづ

いにしへの野なかの玄みづぬるけれどもとの心を玄る人ぞくむ

顯昭云、野なかの玄水とは、播磨の稻見野にあり、此歌にはぬるけれど、よみたれど、件玄水み  
たる人の申しはめでたき玄水也と云々、

但考能因歌枕云、野中の玄水とは、もとのめを云といへり、今案云、其故もなくもとのめをのな  
かの玄水といふべきにあらず、あらましごとに、野中の玄水はぬるく共、もとの玄水を玄り  
たらむ人のくまんやうに、むかし心をつくし、いみじくおぼえし人のおとろへたらんを、も  
との有様玄りたれば、なをむすぶよしをよめりけるを本として、もとのめをば、野中の玄水と